
日記

刻翼

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日記

【Nコード】

N5179Z

【作者名】

刻翼

【あらすじ】

そうだ、日記を書こう。

明確な理由はあるけど敢えては明かさない。

くだらないでしょうもない理由だから。

毎日じゃなくて良い、嘘だけはつかない、私の為の日記を。

（短編日記形式連載）

前書き

此れは、日記の前書きである。

などと初っ端に書いてみたが、しつくりと来ない物だな。

正直にはつきりと言うと、私は日記など無い。

いや、実際には小学生の頃の絵日記やは書いた事はある。

課題として言われた物を言われたテーマを適当に書いた事は、ある。

けれど、だ。

実際に自分から書くこうと思って書いた事は無い。

一度たりとも、無い。

だからこの日記は読みづらい事になるのかもしれない。

読みづらく、理解しがたく、無意味で無価値になるのかもしれない。

けれど其れでも良いのだろう。

書く事にこそ意味があつて、

其れが最終的に私の書く理由を達成して、

時々読むでは懐かしめるのであれば。

それできつと良いのだろうと、私はそう思う。

しかし、前書きも長くなったものだな。

理由も書いて置いた方が良いのだろうか？

いや……不要だろう。

取るに足らない、どうしようもない、きつと未来の私でも厭きれる様な理由であるのだから。

きつと忘れても忘れなくても構わない事だから。

あえて書かない事にしよう、そう思う。

さて、この日記を書くに当たって幾つかルールを決めて置こうと思う。

簡単なルールをだ。

そう数もいらないだろう。

そうだな、

一つ、毎日じゃなくても良い。書きたい時に書く。

一つ、嘘をついてはならない。

一つ、嘘で無いのであれば何を書いても構わない。

大体此れでいいだろう。

とは言っても三つしかないのだけれど。

一つ目はあれだ、毎日書けはしないからな。

何せ私は飽きっぽい。

毎日書くなど無理だ。

だから楽しいと思った事、書きたいと思った事だけで良いのだと思う。

二つ目は当たり前ではあるな。

日記だというのに嘘を書いて如何する。

そして三つ目。

嘘じゃないのだったら何を書いても構わない。

誇張や妄想等といった事を許すと言う事だな。

以上が私の日記の前書き。

今日から始める私の日記。

次が何時かは分からない。

気が向くままに書くから。

けど私はきつと書くのだ。

近い内かもしれない、

遠い後かもしれない。

けれど私は確実に書く。

そんな予感がするのだ。

さて、明日は入学式だ。

前書きは此处まで、

今日はもう寝るとしよう。
お休み。

二××二年 四月八日

入学式

昨日の今日で日記を書く事になるとは思いもよらなかった。

本気で心の其処から思う。

正直に言うとしてつきり放置して来月か再来月辺りに書くのだろうなーなどと思っていた。

其れが昨日の今日で、だと。

書いてる本人も吃驚だ。

それだけ今日の入学式が私にとっては驚きの連続だったのだらう。そして私は今から其れを書き記すのだ。

今朝、空は青く澄み渡っていた。

天気は先ほども言ったとおりに快適。

温度も少し涼しい感じで最高。

気分よく起きて、時間を確認して支度。

朝食後学校に行つて入学式。

校長先生の長い話を睡眠学習の応用で聞き逃し、確認済みの教室まで移動。

其処までは普通、と思われる毎日だった。

教室で先生が自己紹介した。

周りが沈黙と笑いに割れた。

先生が自己紹介を強制した。

順番に自己紹介が開始した。

人が吹き飛んで窓突き破つて落下していった。

チョークが火を噴いて生徒が保健室に運ばれていった。

落下した人が戻ってきてまた落下した。

眼鏡が輝いたらビーカーが割れて爆発した。

不思議と怪我人零だけど警察が来て一人減った。

何を書いているのか分からないと思うが、私も何が起きたのか良くは分からなかった。頭が如何にかなりそうだった。

超能力とか催眠術とか、そんなチャチなものじゃない。もっと恐ろしい物の片鱗を味わったような気がする。

……いや、すまない。

少し書いてみたかったのだ、この引用。

いやまあ、私が体験した事と結構状況的にあつてとは思つが、台詞的に。

まあ、いい。兎に角順番に書いておこう。

教師が教壇立つ

生徒がまだ喋っている

ドンと言う音と共に両断された教壇（教師が手を上げ振り下ろしたかと思うと割れて倒れた）

静まる教室。啞然とした表情とすげえと笑う人の二通り

先生の自己紹介（名前は良く覚えてない。前と後の事がインパクト過ぎて）

「逆らったら教壇のようになるから楽しみにしててねー」（大体こんな感じの事を言っていた）

一部嘘か冗談かと思ったのか爆笑。一部脅えてるのか戸惑ってるのか沈黙

空を飛ぶ教壇（右）。直撃する笑う男。潰されたまま痙攣するように動き、止まった

「では今から自己紹介を始めます。はい、其処の君から始めてね」と自分のやった事をスルーする教師

抗議しようとした生徒

踏み潰される教壇（左）

「先生、暇じゃないの。だから自己紹介開始ね」笑顔で言う教師
首が取れるかと思われる感じに頷く生徒

順番に自己紹介開始。最初は脅えた風だったのが五人か六人目辺
りで一気に雰囲気が変わる

名前と趣味、隣の席の幼馴染の事を言い出した瞬間人が飛んだ。
バウンドして机を幾つか巻き込んで窓に一直線飛んで其のまま自由
落下

「ツツコミですよ」とあたふたと言い訳をして色々つつ飛ばして
彼女の自己紹介で空気が和んだ

今までの出来事からか不思議と全員にスルースキルが備わったよ
うだ。因みに私はすっ飛ばされた分類に入る。ラッキーだ

幾つ物自己紹介完了。ふと止まる流れ。見ると人が眼を開けたま
ま寝ていた

先生が黒い何かを取り出す。チョークを入れる。というかアレは
銃じゃないのか？と考えていたら白い何かが筒から飛び出して額
を直撃。後方に倒れる男。隣に転がるのは煙を立ち上らせるチョー
ク

衛生兵とけだるげに教師が呟いた瞬間上から落ちてきた黒い影が
倒れた男を連れてまた消えた。この間凡そ三秒。人間技じゃない。
恐らく保健室に運ばれたんだろうと思うからまあ、いいのだろうと
思う

何が起ったのかわからないざわめく周囲に先生が動きだすと思
ったら教室前方のドアが開いた。先ほど落下した奴だ。奴はまいつ
たまいったと教室に入ってきて先生の前に立つと喋ってまたバウン
ドして窓から落下した。所で窓破壊費用って何処から出るんだ？

経費か？ 弁償か？ まあどっちでもいいか

自己紹介

自己紹介

自己紹介

眼鏡をかけた人が立ち上がった。ビーカーを持ったまま。暗い笑顔で私も目立つの、とか言いながらビーカーに何かをしようとしたのか落としてしまい、瞬間爆音と煙が聴覚と視覚を支配窓の割れる音、煙が散らされる。教室は無残な状況。けど怪我人は無い

制服が煤だらけになった事で怒った私が眼鏡に説教、な的人格改変開始

眼鏡の眼が虚ろになりつつある時に爆発音で呼ばれたのか警察が乱入

洗脳成功一歩手前だったのに邪魔な警察だ。後で少しリークしておこう

下敷きになった男性を見た警察が眼鏡を殺人未遂だか過失傷害罪だかで逮捕。寧ろ冤罪だが面倒なので放置。まあ、捕まればある意味良い薬になるだろうしな。所でこの男先ほどの衛生忍者に運ばれなかったのか、不憫な奴め。そして警察も結局こいつを床に教壇（右）の下に放置か。哀れな

色々騒ぎになったので今日はこのままお開きに。後半綺麗に自己紹介がスルーされたが良いのか此れ

爆発とかで学校が休校決定。全員帰宅。私も帰宅した
ご飯作って本読んでそして今に至る。

うむ、一つ一つ思い出しながら書いて見るとあれだ、随分と濃い一日だったなあ、おい。

まったく、私のクラスは普通じゃない奴等ばかりだな。教師も生徒も。

私のような普通の奴がやっていけるのか？ これ。

余り巻き込まれたく無い物だ……

仕方が無い、後でしようと思ったが明日から行動を開始するとして
よう……

とりあえず今日の日記は此れでおしまいとするか。

二
×
×
二
四月九日

入学式（後書き）

追記：寝る前の散歩で犬を拾った。今後もしこういう事が起こるか
もしれないので以降は寝る前に日記をつける事とする。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5179z/>

日記

2011年12月17日18時52分発行